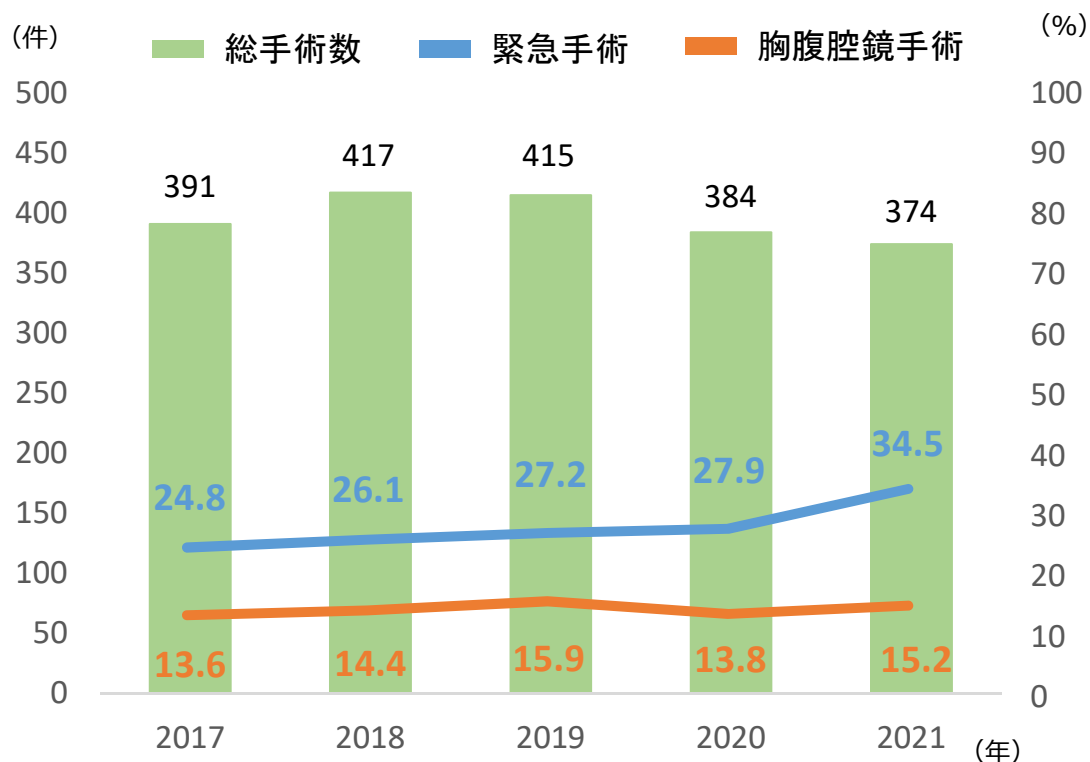
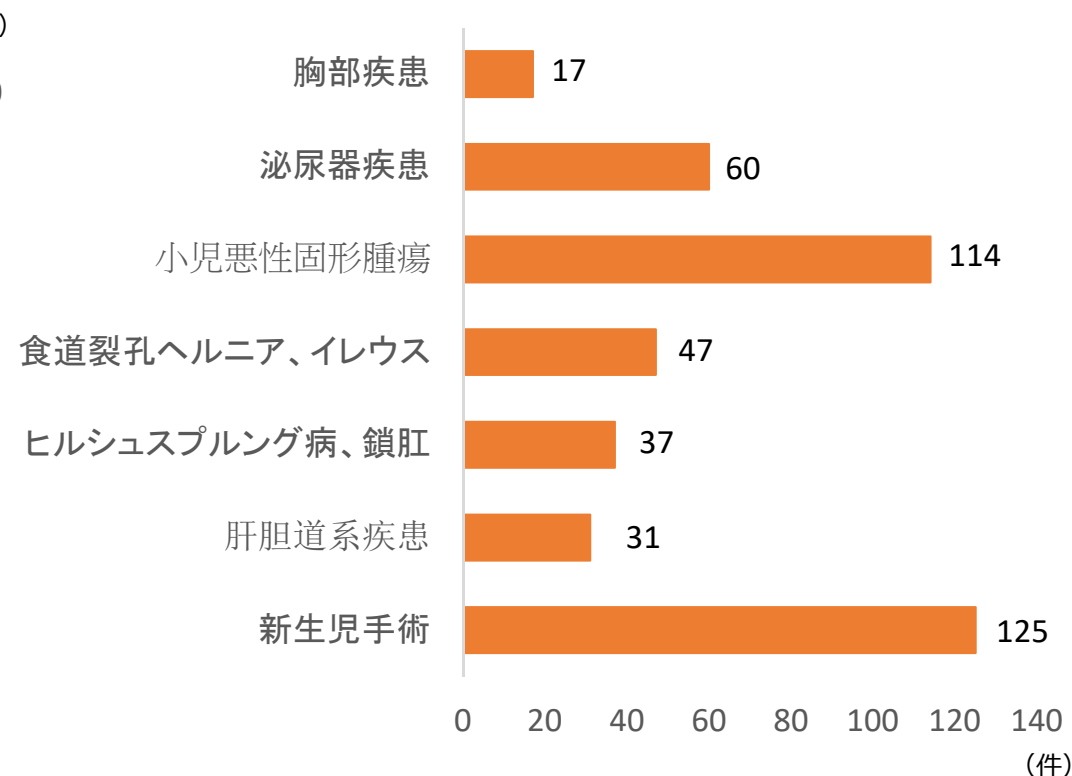


小児外科手術の特徴



小児外科の手術症例 (2017-2021年)



- 年間入院数は600～650例で、年間手術数は400例前後です。緊急手術は全体の約25～30%を占めています。
- 胸・腹腔鏡手術が成人外科と同様、患者さんの術後のQOL改善の観点から注目されており、10-20%前後を占めるようになってきました。
- 小児への消化管内視鏡を年間60-70例行っています。

小児外科の対象患児は、新生児・乳児・幼児・学童以降と、幅広い年齢層に渡ります。また、様々な臓器・疾患を対象としています。